

中村 哲氏の遺志を学び取ろう!

追悼 「ペシヤワール会」 現地代表の中村哲医師の死亡に

哀悼の意を表明する。

東京地本執行委員会

報道によると現地時間の4日午前8時(日本時間同日午後0時半)ごろ中村さんはオフィスと宿舎があるジャララバードから約25キロ離れた、灌漑用水事業の活動現場まで車で移動中に何者かに襲われ右胸に銃弾を受け、病院で緊急手術受け、首都カブールの米空軍基地に運ばれる途中で死亡した。

中村さんは、1973年に九州大学医学部を卒業し84年にパキスタンで医療支援を始め、その後アフガニスタンへ拠点を移し医療活動の一方、大干ばつのアフガニスタンで「人々の暮らしを根底から奪った干ばつ地帯で何より命のための水が必要だ」と井戸を掘り、やがて灌漑用水路事業に取り組み約1万6500ヘクタールの土地に水を提供し65万人の命を保ったと言われている。この事業の間に同僚の伊藤さんが武装グループによって命を奪われた時、中村さんは「暴力は何も解決しない」と語っている。中村さんの支援の基本は徹底した人の命を守ることと平和主義に基づいている。その志は、私達の「ひがし労」の戦争反対! 平和な社会を目指すために活かさなければならぬものである。徹底して争いごとを退ける慎重な行動をとっていたと言われている中で、計画的だと思われる凶弾に倒されたことに強い怒りと憤りを感じるが、「武器ではなく命の水を」の遺志は、心ある人々に広く伝わっていることも確認できる。ひがし労東京は、中村哲氏の遺志を学び取る。



感想文 「第1回秩父困民党風布地区研修に参加して」 研修参加組合員

賃金は上がらず税金は上がる、改憲し戦争ができる国へと進もうとしている現在の時代背景と酷使していると感じました。そんな状況下、東労組をはじめともでない労働組合ばかりになっていくなか、真面目な労働組合を結成したひがし労の直近で最大の課題である組織拡大に取り組み私達にとって大変参考になる一件であると思いました。「暴徒・暴動」として伝えられています。中味は全く違い、弱者の為に立ち上がり、情報手段の無い中、足を使い「山林集会」「耕地オルグ」を繰り返して、軍律五ヶ条、要求四ヶ条を掲げ一万人の農民を組織化し、当時の権力に立ち向かった世直し革命であった事を再認識しました。闘いを急ぐ農民たちを抑えられず、関東一円の闘いを築けず蜂起突入後も情報錯綜し組織が乱れてしまった点は、残念です。「リーダーの決断の重要性・組織の意思統一の重要性」を学ぶ事が出来ました。そして、何よりも夜の交流会前の葎田夫妻のナレーションに合わせての青年部による寸劇は、なかなか全員そろっての練習ができなかったとお聞きしましたが、当時の様子が目に浮かび、迫力があり、大変感動しました。また、各踏査箇所においての困民塾を中心とした方々による説明はよく勉強しているのが伝わり大変分かり易いものでした。最後に今研修の準備に係わった皆さんに感謝致します。次回は、仲間と一緒に参加できるように職場で奮闘します。

第1回 秩父困民党 風布地区研修 JR東労働組合



東京地本旗開きの開催について

2020年1月25日 14時～ 与野本町公民館